

国と大阪府は無用なダム建設に躍起

たった10トン/秒の為にダム建設

大阪府は大津川の水の流す能力を700Ton/秒に整備するが、100年に一度の雨が降った時に水量が710Ton/秒となり、これを無謀にも端数処理と称して750Ton/秒に嵩上げ(切り上げ)その結果50Ton/秒超えるので、ダムで対応する計画です。本当に不足しているのは10Ton/秒で無理やりダムを造る為の論理です。

更に100年に一度の710Ton/秒にも重大な疑問

100年に一度の雨が降ったときにダムには85 Ton/秒の水が流れる計画ですが、私達の計算では50 Ton/秒強しか流れず、これで計算すると、100年に一度の雨が降っても河川の改修で十分で、ダムは不要となります。(計算根拠は私のHPに掲載)

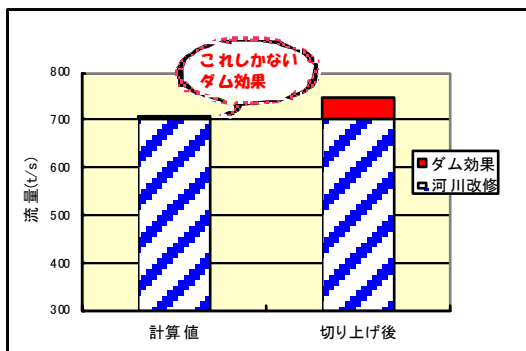


一貫性のない洪水対策

和泉市は大雨が降ったら洪水になると言いながら、保水力のある緑をどんどん削っています。250億円の巨費を投入してダムの近くに、東部農用地の開発を行っています。何ともちぐはぐの対応ではありませんか。 *現在の状況です*



山の中の突然の道路



昔から僅かな水量しかない川、この場所にどうしてダムが必要なのか、全く理解できない。
 槇尾川は、蔵岩堂(くろいわどう)と呼ばれる水の神様のおられる水源である。この辺りはため池も少なく、僅かな水でも貴重。槇尾川の水を灌漑用に直接利用してきた泉大津の板原の人たちが、今も毎年お参りに来ている。1500年の歴史があり、信仰の対象になる山(自然)はかけがえないものである。
 槇尾山 施福寺住職 津守良海氏

槇尾川ダム中止を



ダムによって失われる貴重な自然

ダム建設により槇尾川ダム周辺の貴重な自然が失われます。失われた自然は二度と戻ってはきません。自然の回復には気の遠くなるような時間と努力が必要なのです。巨大な人口構造物は一度造れば元には戻せません。



左の写真は施福寺への参道です。今年の酷暑でも周りの鬱蒼と茂った木々でひんやりとして気持ちすがすがしくなります。この道を水没させ、新たに造った道を想像してみてください。このようになるのは何十年もかかっているのです。

とんとん使われる費用

槇尾川ダムは建設に向けて動き出しており、早く止めないと無駄な費用がどんどん使われることとなります。

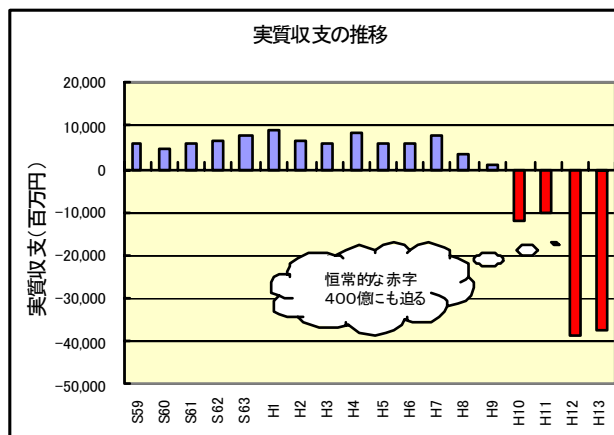


既に累計で12億を超える予算が消化されています。
 <工事中の取付道路>



市民の力でダムを中止に!

こんな財政危機にあって不要なダムを何故造る



左図は大阪府の実質収支です。財政再建団体転落寸前で何故不要なダムを造るのか?

全国に広がるダム中止の動き

「脱ダム」が全国で静かに進んでいる。日本には計画・建設中のダムがなお400近く残っています。反対運動にあっても推進される国の大規模なダムがある一方で、中止や規模の縮小を探る動きも広がっています。国が中止を決めた92ダムと、まだ計画が生きている主要113ダム(総貯水量900万トン以上)をみると、財政難や環境保護の動きの中で揺れる姿が浮かび上がります。

ダム名	都道府県	総貯水量(万Ton)
清津川	新潟	17,000
川古	群馬	7,600
細川内	徳島	7,310
紀伊丹生川	和歌山	6,040
矢田	大分	5,700
平川	群馬	5,000
猪牟田	大分	3,850
木屋川	山口	3,760
白老	北海道	2,340

主な中止ダム
 この近くの紀伊丹生川ダムが最近中止になりました。ダムに代わる治水対策が必要となる訳ですが、今までダムの中止があってもその方は余り聞きません。紀伊丹生川の動向を注視しましょう。

脱ダム 静かな流れ